

数学科講師
吉良 敏宏 氏

メデュカパス卒業生
(日本大学医学部1年)
鈴木 研裕 さん



生徒同士教え合うことで 理解が深まる 「Input-Output方式」

旧両国予備校で長年にわたり、医歯系大受験指導に携わってきたベテラン講師陣が設立した少人数制予備校が「メデュカパス」。生徒同士が教え合う独自の授業「Input-Output方式」や、充実した内容の「対策本」などが大きな強みになっています。その教育の特色を、数学科の吉良敏宏講師とOBの鈴木研裕さん（日本大学医学部1年）に語り合っていました。

オリジナルテキストで ベストの解法を習得

吉良 メデュカパスで印象に残っている授業を教えてください。

鈴木 衝撃的だったのが物理の授業です。それまでの私は、単に受け身で授業を聞いているだけで、何となく「わかった」つもりになっていました。自力で問題が「解ける」のもう一段階上のレベルなため、いつの間にか物理が苦手科目になっていました。メデュカパスの授業で指導されたのは、「教えられたことが本当に正しいのか、常に疑問を持つようにしなさい。その疑問を追求して、完全に自分のものとして消化するこ

とが大切」ということです。物理は抽象的な概念が多く、自分で考え抜く勉強が不可欠になります。それからは必死で考えて、それでも疑問が解消されない場合は先生に質問に行く学習を繰り返したことで、成績が急激に上昇していきました。

数学の授業も印象に残っています。オリジナルテキストに幅広い分野の多様なパターンの問題が盛り込まれており、それぞれの問題を解く際のベストの解法を習得することができました。

吉良 オリジナルテキストは、旧両国予備校時代から蓄積されてきた頻出問題をもとにして、毎年すべての医学部の入試問題を詳細に分析し

て、新傾向問題も加えて改良しています。

国立医学部の2次試験は、1問30分ぐらいかけてじっくり記述させる問題が多いのですが、私立医学部の場合は、マークシートで解答だけを書く問題が多く、その分、大量の問題が出題されます。その点を意識して、どんな分野から出題されても対応できる力を養うと同時に、複数の解き方があっても、その中で最も効率の良い解法を身につけさせるように努めています。単に解ければいいわけではなく、スピードをとまなかったベストの解法を習得していなければ、私立医学部の問題のボリュームには太刀打ちできないからです。